

岳昱澎・小川芳樹

(東北大学大学院情報科学研究科)

yue.yupeng.q2@dc.tohoku.ac.jp / yoshiki.ogawa.e3@tohoku.ac.jp**要旨：**

中国語では、形容詞が述語として用いられる際に、二種類の構造が存在する。一つは形容詞の前に「很」が付く構造（很 A）であり、もう一つは形容詞が重複され、「的」が後続する構造（AA 的）である。「很」と「的」が同時に現れることはない。この言語事実は従来、「性質形容詞」と「状態形容詞」の対立として扱われてきた（朱（1980, 1982））。しかし、朱の分類には複数の問題点がある。そこで、本発表では当該事実に対して、分散形態論(DM)のもとで代案を提案する。文法構造の中で、語根√A を範疇化するための範疇化子(categorizer) a が存在し、後期挿入(late insertion)により aP が「很 A」または語根重複形「AA」として具現化すると仮定する。これは、中国語では単音節の述語が許されないためである。また、重複は通言語的に名詞化を引き起こすという仮定と、名詞的繫辞「的」の接辞性を支えるために、FP 指定部への述部倒置が起きるという仮定により、「AA 的」型の述語の派生は説明される。

キーワード： 中国語, 分散形態論, 形容詞述語文, 疊語, 述部倒置, 名詞的繫辞

1. 導入

中国語の形容詞が単独で述語として使用される際、その前に very の意味の「很」をつけると自然な文になる(=(1a,b))。しかし、一部の形容詞は単独で述語として使用される際、「很」が付けられない(=(2a,b))。

- (1) a. 张三很脏。(張三は汚い)
b. *张三脏。
- (2) a. 张三脏脏的。(張三は汚れている)
b. *张三很脏脏的。

(2a,b)のタイプの形容詞は、以下の2つの特徴をもつ。

- (3) a. 形容詞が疊語になる。
b. 義務的に接尾辞「的」を伴う。
- (4) 疊語(reduplicated word)：語の要素を2回繰り返す(重複 reduplication)てできた語のことであり、複合語の一種である。(大里 (2014))

本発表では、この中国語形容詞の特徴が、中国語形容詞についての従来の代表的な研究（朱（1980, 1982））の枠組みでは説明できないことを示し、分散形態論に基づく代案を提案する。

2. 朱(1980, 1982)の研究とその問題点**2.1. 朱(1980, 1982)の研究**

朱(1980)によれば、中国語の形容詞は大きく2種類に分類される。一つは「性質形容詞」と呼ば

れ、物事の恒久的で静止的な属性を表す (i.e. 例(1)の「脏」)。もう一つは「状態形容詞」と呼ばれ、物事の暫定的で変化しうる意味を表す (i.e. 例(2)の「脏脏的」)。性質形容詞は述語として使用される際には「很」を付けるのが義務的であるが、状態形容詞は「很」を付けられない。その上で、朱(1980)は、「很 A」などの形容詞句を状態形容詞の一種として分類している。¹

朱 (1982)は、述語が形容詞であるためには、(A) 語の前に「很」をつけられる、(B)目的語を述語の後に取らないという二点を共に満たす必要があると論じている。

- (5) a. 态度端正 (態度が正しい) → 态度很端正 (形容詞)
- b. 端正态度 (態度を正す) → (*很) 端正态度 (動詞)
- c. 张三喜欢象棋 (张三是将棋が好きだ) → 张三很喜欢象棋 (動詞)

2.2. 朱(1980)の研究の問題点

しかしながら、この分類基準には少なくとも3つの問題点がある。

[A] (6a,b)はいずれも「很」を伴う形容詞だが、(6a)の「很高」は恒常性を示し、(6b)の「很高」は一時性を示す。一方、(7a,b)はいずれも「很」を伴わない形容詞だが、(7a)の「缓缓的」は恒常性を示し、(7b)の「缓缓的」は一時性を示す。(6), (7)より、「很」の付加可能性は、性質か状態かの差ではないことがわかる。

- (6) a. 张三很高。(张三はとても背が高い)
- b. 今天油价很高。(今日はガソリンの値段はとても高い)
- (7) a. 这首歌曲缓缓的。(この曲のリズムがゆっくりだ)
- b. 溪水缓缓的。(小川の水はゆっくりと流れている)

[B] 「很」をつけられない形容詞は語根を重複形にし、かつ「的」を付けなければならないが(=(1), (2))、朱の主張では、「很」と「的」の相補分布が説明できない。

[C] 朱(1980)は性質形容詞と状態形容詞を区別するためにも、形容詞と動詞を区別するためにも「很」の付加可能性を利用しているために、(8a)の「醒」も(8b)の「缓缓的」も同じ特徴をもつことになり、形容詞と動詞を区別できないことになる。また、(8a)と(8c)より、「了」の付加可能性で形容詞と動詞を区別することもできない。

- (8) a. 张三(*很)醒了。(张三が目を覚ました) (醒=動詞)
- b. 溪水(*很)缓缓的。(小川の水はゆっくりと流れている) (缓缓的=形容詞)
- c. 叶子(很)红了。(葉が(とても)赤くなった) (红=形容詞)

¹ 本発表では「很 A」型形容詞と「AA 的」型形容詞の間の意味的な相違については論点としないが、田梅 (2014: 83)は、疊語形容詞の意味的特徴について、次のように述べている。

- (i) 語意の面では、形容詞を重ね型にすると、語彙の感情色彩を強化し、「本当に」「確かに」といった強調の意味を加え、具体的な状況、状態を描写する。事物の発話時点の具体的な状況を生き生きと描写する語感が感じられ、ある種の量や話者のこの属性に対する主観的判断につながる新しい形容詞になる。

3. 分散形態論と採用するその他の仮説

3.1. 分散形態論 (Distributed Morphology; DM)

- (9) Models of morphology:
- Weak Lexicalist models of syntax (Chomsky 1970, Aronoff 1976, Chomsky 1981, Baker 1985, Di Sciullo and Williams 1987, Lieber 1992)
 - Strong Lexicalist models of syntax (Halle 1973, LFG, HPSG)
- (10) Distributed Morphology (DM; Halle and Marantz 1993) is a formal framework for grammatical theory that was developed as a response to the prevalence of Lexicalism in the Chomskyan tradition of generative grammar.
- Syntax manipulates morphemes as its terminal nodes, not fully formed “words”.
 - The morphophonological expression of words is not present throughout the derivation but is rather inserted into a fully derived syntactic structure to realize that structure. (cf. Anderson 1982, 1992)
 - Listemes compete with each other to express those features.
 - Listemes are underspecified for the environments they can appear in.
- (11) In DM, the generative component of the grammar manipulates abstract formal features, bundles of which together are realized by Vocabulary Insertion (VI). In reality, DM is not a morphemic model, but rather a submorphemic model. [...] A “minimal sound-meaning correspondence” in DM is a Vocabulary item, which is better described as a listeme rather than a morpheme, as it is never actually manipulated by the generative component. (Siddiqi (2018: 151))
- (12) Listeme: a word or phrase that must be memorized because its sound or meaning does not conform to some general rule. Also called a *lexical item*. (Di Sciullo and Williams (1987))
- (13) a. Conversion (e.g. Let’s table this proposal) is treated in the item-and-arrangement models as the affixation of a null morpheme to a stem.
b. Stem morphology (e.g. mouse/mice or PROduce/proDUCE) is treated as the effect of a null affix that conditions a phonological change. (Siddiqi (2018: 152))
- (14) 語彙挿入規則 (ゼロ派生) :
- [+past] $\Leftrightarrow \phi/X + ___$ where X = put, hit, shut
 - [+verb] $\Leftrightarrow \phi/X + ___$ where X = table, bicycle, produce, etc.
- (15) 語彙挿入規則 (ゼロ派生) と再調整規則 1 (母音交替) :
- [+past] $\Leftrightarrow \phi/X + ___$ where X = sing, get, dig, etc.
 - i \rightarrow a / $___ [+past]$ (sing, drink の場合)
- (16) 語彙挿入規則 (一般規則) と再調整規則 2 (子音削除) :
- [+past] $\Leftrightarrow [-d]/X + ___$ where X = make, have, buy, teach, etc.
 - make \rightarrow ma [mei] / $___ [+past]$ (X= make) (cf. 西山 (2016: 96-97))

3.2. Relator/Linker 理論 (den Dikken (2006))

- (17) a. John considers [John (to be) the culprit].
b. John considers [the culprit *(to be) John]. (Moro (1997))

- (18) a. a village like a jewel
 b. a jewel *(of) a village (of = 名詞的繫辞 (nominal copula))
- (19) a. [_{RP} a village R(like) a jewel]
 b. [_{FP} a jewel R+F(of) [_{RP} a village R(ϕ) a jewel]] (den Dikken (2006))
- (20) a. 女性 (の) 運転手
 b. 運転手 *(の) 女性
 c. [_{FP} 運転手 [R+F(の) [_{RP} 女性 R(ϕ) 運転手]]] (小川 (2019))
- (21) a. 高さ 10m
 b. 10m*(の)高さ (「の」 = 名詞的繫辞)
 c. [_{FP} 10m [R+F(の) [_{RP} 高さ R(ϕ) 10m]]] (小川 (2019))
- (22) a. 高度 10 米
 b. 10 米 *(的) 高度 (「的」 = 名詞的繫辞)

3.3. No Crowding Condition (NCC)

- (23) No Crowding Condition (Collins and Kayne (2023); cf. An (2007), Ogawa (2023)):
 a. Edge(X) must be phonetically overt.
 (Edge(X) includes both the head and the specifier of XP)
 b. The condition in (a) applies in a minimal way so that either the head, or the specifier, but not both, are spelled-out overtly.
- (24) a. I know [_{CP} what [_C(ϕ) [TP John bought]]]
 b. I know [_{CP} C(that) [TP John bought]]
 c. *I know [_{CP} what [C(that) [TP John bought]]]
- (25) a. [_{DP} the man [_{CP} OP [_C C(that) [TP [Θ P] came]]]]
 b. [_{DP} the man [_{CP} who [_C C(ϕ) [TP [Θ P] came]]]]
 c. * [_{DP} the man [_{CP} OP [_C C(ϕ) [TP [Θ P] came]]]]
- (26) a. [_{FP} a jewel F(of) [_{RP} a village R(ϕ) a jewel]] (= (20b)) →
 b. [_{XP} a jewel [_{FP} R+F(of) [_{RP} a village R(ϕ) a jewel]]]
- (27) a. [_{FP} 10m [R+F(の) [_{RP} 高さ R(ϕ) 10m]]] (= (22a)) →
 b. [_{XP} 10m [X(ϕ) [_{FP} [R+F(の) [_{RP} 高さ R(ϕ) 10m]]]]]

3.4. 語根の範疇化と疊語の名詞化

- (28) a. 名詞 hammer/tape : [_{NP} n(ϕ) $\sqrt{\text{hammer/tape}}$] (n= nominalizer)
 b. 動詞 hammer : [_{VP} v(ϕ) $\sqrt{\text{hammer}}$] (v= verbalizer)
 c. 動詞 tape : [_{VP} v(ϕ) [_{NP} n(ϕ) $\sqrt{\text{tape}}$]] (cf. Arad (2003))
 d. 名詞 destruction : [_{NP} $\sqrt{\text{destroy}}$ n(-ion)] (cf. Marantz (1997))
- (29) オノマトペからアイコン性の消失により派生された一般動詞:
 a. 副詞「よろよろと」→スル動詞「よろよろする」→一般動詞「よろめく」
 b. 「うろろうと」→「うろろうする」→「うろつく」
 c. 「ざわざわと」→「ざわざわする」→「ざわつく」 (今井・秋田 (2023: 158))
- (30) a. 名詞「光(hikari)」: [_{NP} [_{VP} $\sqrt{\text{hika}}$ v(r)] n(ϕ)]

- b. 動詞「光る」: [TP [VP √hika v(r)] T(u)]
- c. 疊語「ぴかぴか」(→ぴかぴかする/*ぴかぴかる):
 [NP n(hika) √hika] → [TP [VP [NP n(hika) √hika] v(su)] T(ru)]
 →再調整規則: hika → pika / ___ [+reduplicated / +compounded]
- (31) a. 動詞「飽きる」: [TP [VP v(φ) √aki] T(ru)]
- b. 疊語「飽き飽き」(→飽き飽きする/*飽き飽きる):
 [VP v(aki) √aki] → [TP [VP [NP [VP v(aki) √aki] n(φ)] v(su)] T(ru)]

4. DM に基づく中国語の形容詞述語文の特徴の説明

4.1. 「很」を伴う形容詞述語文の統語構造

- (32) a. 张三很脏。(张三 is 汚い)
- b. 中国語に固有の仮定 1: 「很」は *adjectivizer* である。
- c. 中国語に固有の仮定 2: 中国語では単音節の述語は許されない。
- d. [aP 张三 [a·a(很) √脏]] (*No Crowding Condition→)
- e. [TP 张三 [T·T(∅)[aP 张三 [a·a(很) √脏]]]]

(32b)について: 「很」は状態述部とのみ共起する (Huang et al. (2009); Cheung and Larson (2015: 149))。このため、「很」を形容詞化接辞とみなすのは妥当。

(32c)について: 古漢語(先秦時代)²には、CAUSE の意味をもつゼロ形態素が存在していたので、形態変化しない自他交替動詞が多用された(顧陽 (1995), 徐 (2001))。

- (33) a. 破敌 (敵を打ち負かす) - 敌破 (敵が負けた)
- b. 空其城 (市街地を明け渡す) - 城空 (市街地が空っぽになった)

しかし、現代中国語では、一音節の結果動詞は状態の意味を表す形容詞としてしか機能せず、英語の *break_{vi}/break_{vt}* のような自他交替は起きない(使役化するには、動作・様態を表す別の動詞を付加して2音節にする必要がある)(cf. 望月(2004), 崔 (2008))。

- (34) a. 他打破了花瓶 (彼が花瓶を壊した) - 花瓶破了 (花瓶が壊れた)
- b. 他喝空了水杯 (彼がコップを空にした) - 水杯空了 (コップが空になった)

多くの(1音節の)非対格動詞は、形容詞と同根であるが、形容詞語根にアスペクトの「了」を伴って動詞化する。したがって、(32c)は、中国語の形容詞に特有の仮定ではない。

- (35) a. 眼圈红了。(目の周りが赤くなった)
- b. 价格高了。(値段が高くなった)

4.2. 疊語になる形容詞述語文の統語構造

² 中国語の時代区分は以下の通り (Aldridge (2013: 40))。

古漢語(紀元前 14 世紀～紀元前 3 世紀); 中漢語(紀元前 2 世紀～紀元 10 世紀)

近漢語(紀元 11 世紀～19 世紀); 現代漢語(20 世紀～)

- (36) a. 张三脏脏的。(张三 is 汚れている)
 b. [_{aP} 张三 [_a a(脏)√脏]] (reduplication →) nominalization →
 c. 中国語に固有の假定3:「的」は nominalizer である。
 d. [_{nP} n(的) [_{aP} 张三 [_a a(脏)√脏]]] (*stranding suffix→) predicate inversion →
 e. [_{FP} [_{aP} a(脏) √脏] [_F F(φ) [_{nP} n(的) [_{aP} 张三 aP]]]] (denominalization →)
 f. [_{TP} 张三 [T(φ) [_{FP} [_{aP} a(脏) √脏] [_F F(φ) [_{nP} n(的) [_{aP} 张三 aP]]]]]]]]

「的」は、述語が重複型形容詞のときには必要だが、単音節形容詞のときには生起できない。この事実は、重複型形容詞の場合にのみ名詞的繋辞「的」が現れ、そのときには、「的」の接辞性を支えるために、FP 指定部への aP の述部倒置が起きなければならないため、と説明される。³

述部倒置のあと、(36e)のままでは、「汚れている张三」という名詞句となってしまうので、名詞句を動詞化して文としての解釈を得るために、T が併合されて脱名詞化され、TP 指定部に主語が移動し、(36a)の語順が得られる。

4.3. 動詞的繋辞「是」を伴う文

中国語の形容詞述語文には通例、be 動詞「是」が生じない(=(37a))。しかし、非重複型形容詞述語文に「是」が生じる場合があり、この時には「的」も必ず共起する(=(37b))だけでなく、「很」が生じない(=(37c))。

- (37) a. 张三(*是)很脏。(张三 is 汚ない)
 b. 张三是脏*(的)。(汚ないのは张三だ)
 c.*张三是很脏的。(「是」と「很」は共起しない)

(37b)の「张三」は、形容詞述語文「S is A」の主語ではなく、英語の「It is S that is A」に相当する分裂文の焦点句であり、「是」を Linker の X、「的」を aP 主要部とする別の構文である。

- (38) a. [_{aP} 张三 [_a a(很)√脏]] (*No Crowding Condition) →
 [_{TP} 张三 [T T(φ) [_{aP} 张三 [_A a(的) √脏]]]]
 b. [_{FP} √脏 [_F F(是) [_{aP} 张三 [_a a(的) √脏]]]] (*No Crowding Condition) →
 [_{CP} 张三 [_C C(φ) [_{XP} X(是) [_{FP} √脏 [_F F(是) [_{aP} 张三 [_a a(的) √脏]]]]]]]]

Selected References:

Aldridge, Edith (2013) "Survey of Chinese Historical Syntax Part I: Pre-Archaic and Archaic Chinese," *Language and Linguistics Compass* 7(1), 39-57.

³ 中国語の疊語形容詞が述語として使われる場合には、「AA 的」型以外にも「ABB 的」型(例: 羞答答的(はずかしがっている))、「AABB 的」型(例: 痛痛快快的(存分に痛快である))、「ABAB 的」型(例: 雪白雪白的(雪のように真っ白だ))などがあるが、このような変異種については、nP に対する形態部門における異なる形での後期挿入と再調整規則の適用の結果であると仮定するとどめ、本発表では疊語形容詞の典型例のみを説明することとする。説明すべき重要な事実は、いずれの場合も、「的」を必要とするということである。

- An, Duk-Ho (2007) "Clauses in Noncanonical Positions at the Syntax-Phonology Interface," *Syntax* 10, 38–79.
- Arad, Maya (2003) "Locality Constraints on the Interpretation of Roots: The Case of Hebrew Denominal Verbs," *Natural Language and Linguistic Theory* 21(4), 737-778.
- Cheung, Candice Chi-Hang and Richard K. Larson (2015) "Psych Verbs in English and Mandarin," *Natural Language and Linguistic Theory* 33, 127-189.
- Chomsky, Noam (1970) "Remarks on Nominalization," *Readings in English Transformational Grammar*, ed. by Roderick A. Jacobs and Peter S. Rosenbaum, 184-221, Ginn, Waltham, MA.
- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on Government and Binding*, Foris, Dordrecht.
- Collins, Chris, and Richard S. Kayne (2023) "Towards a Theory of Morphology," *Studies in Chinese Linguistics* 44(1), 1-32.
- 崔玉花 (2008) 「日本語と中国語における使役起動交替－中国語の単音節動詞の場合を中心に－」『日本語と日本文学』47, 54-69.
- den Dikken, Marcel (2006) *Relators and Linkers. The Syntax of Predication, Predicate Inversion, and Copulas*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Di Sciullo, Anna-Maria and Edwin Williams (1987) *On the Definition of Word*, MIT Press, Cambridge, MA.
- 顧陽 (1996) 「生成语法及词库中动词的一些特性」『当代语言学』第三期 1-16, 北京.
- Halle, Morris and Alec Marantz (1993) "Distributed Morphology and the Pieces of Inflection," *The View from Building 20*, ed. by Ken Hale and Samuel J. Keyser, 111-176, MIT Press, Cambridge, MA.
- Huang, C.-T. James, Y.-H. Audrey Li, and Yafei Li (2009) *The Syntax of Chinese*, Cambridge University Press, Cambridge.
- 今井むつみ・秋田喜美 (2023) 『言語の本質:ことばはどう生まれ、進化したか』中公新書, 東京.
- Marantz, Alec (1997) "No Escape from Syntax: Don't Try Morphological Analysis in the Privacy of Your Own Lexicon," *Proceedings of the 21st Annual Penn Linguistics Colloquium*, 201-225.
- 望月圭子(2004) 「日本語と中国語における使役起動交替」『松田徳一郎教授追悼論文集』236-260, 研究社出版, 東京.
- Moro, Andrea (1997) *The Raising of Predicates: Predicative Noun Phrases and the Theory of Clause Structure*, Cambridge University Press, Cambridge.
- 西山國雄 (2016) 「屈折形態論：日本語動詞の活用と英語の不規則動詞」『形態論』漆原朗子 (編), 84-112, 朝倉書店, 東京.
- 小川芳樹 (2019) 「日本語の名詞的繫辞構文の通時的变化と共時的変異」『レキシコン研究の新たなアプローチ』, 岸本秀樹・影山太郎 (編), 81-112, 開拓社, 東京.
- Ogawa, Yoshiki (2023) "Grammaticalization from Minimizer to Focus Marker as Upward Reanalysis along the Nominal Spine," *Studia Linguistica* 77(2), 258-306.
- 大里彩乃 (2014) 「疊語の研究」『東京女子大学言語文化研究』第22巻, 1-16.
- Siddiqi, Daniel (2018) "Chapter 8: Distributed Morphology," *The Oxford Handbook of Morphological Theory*, ed. by Jenny Audring and Francesca Masini, 143-165, Oxford University Press.
- 田梅 (2014) 「現代語疊語・疊語形容詞の構造について－現代中国語、日本語の疊語・疊語形容詞－」『大学教育』11巻, 78-87, 山口大学大学教育機構.
- 徐丹(2001) 「从动补结构的形成看语义对句法结构的影响」『语文研究』第二期 5-12.
- 朱德熙 (1980) 「现代汉语形容词研究」『现代汉语语法研究』, 3-41.
- 朱德熙 (1982) 『语法讲义』商务印书馆